

青森県経済統計報告

平成 21 年 2 月 4 日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（平成 21 年 1 月 1 日現在）…………… 1

県人口	1,392,976 人	(対前月 694 人 減少)
自然動態	536 人減少	(出生者数 813 人、死亡者数 1,349 人)
社会動態	158 人減少	(転入者数 1,265 人、転出者数 1,423 人)

2 本県の経済動向

(1) 経済概況

本県経済は、厳しさを増している。

(2) 主要経済指標の動向

- (2-1) 製造業の生産動向 平成 20 年 11 月の青森県鉱工業生産指数(平成 17 年=100)は、季節調整済指数が 96.5 で、前月比 5.4%の低下となり、3ヶ月連続で前月を下回った。また、原指数は 99.1 で、前年同月比 14.6%の低下となり、2ヶ月連続で前年同月を下回った。 … 2
- (2-2) 雇用情勢 平成 20 年 11 月の定期給与は 227,307 円で前年同月比 0.2%増となった。総実労働時間は 155.0 時間で前年同月比 4.1%減、所定外労働時間は 9.2 時間で前年同月比 9.8%減となった。平成 20 年 12 月の有効求人倍率(季節調整値)は 0.35 倍で、前月比 0.01 ポイント上回った。 … 3
- (2-3) 物価 平成 20 年 12 月の青森市消費者物価指数(平成 17 年=100)は、総合指数が 101.1 となり、前月と比べ 0.8%の下落、前年同月と同水準となった。 … 4
- (2-4) 個人消費 平成 20 年 11 月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが 137 億 9 千 9 百万円で前年同月比 0.4%増と 2ヶ月ぶりに増加、既存店ベースでは 1.4%減と 4ヶ月連続で減少となった。平成 20 年 12 月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は 2,094 台で、前年同月比 10.4%の減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。 … 5
- (2-5) 住宅建設 平成 20 年 12 月の新設住宅着工戸数は 567 戸で、前年同月比 1.9%減となり、3ヶ月ぶりに前年を下回った。 … 6
- (2-6) 電力使用量 平成 20 年 12 月の大口電力使用量は 2 億 0,540 万 kWh で、前年同月比 11.8%減となり、7ヶ月ぶりに前年を下回った。 … 6

(3) 景気動向指数（平成 20 年 11 月分）…………… 7

先行指数	22.2%	(9か月連続で50%を下回った)
一致指数	22.2%	(2か月ぶりに50%を下回った)
遅行指数	33.3%	(4か月連続で50%を下回った)

(4) 青森県景気ウォッチャー調査（平成 21 年 1 月期）…………… 8

3ヶ月前と比べた景気の現状判断DI	13.0	(前期比2.9ポイント減、6期連続で50を下回る)
3ヶ月後の景気の先行き判断DI	17.5	(前期比3.0ポイント減、6期連続で50を下回る)

1 青森県の推計人口(平成21年1月1日現在)

【概況】

平成21年1月1日現在の本県推計人口は、1,392,976人で、前月に比べ694人の減少となった。

○自然動態

出生者数が813人、死亡者数が1,349人で、536人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,265人、転出者数が1,423人で、158人の減少となった。

総人口の推移

(単位:人)

	総数	対前月増減率		増減数	自然増減数	出生者数		死亡者数	社会増減数	県外からの転入者数	県外への転出者数
		男	女			出生者数	死亡者数				
昭45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
20.1.1	1,406,738	662,556	744,182	-0.056%	-784	-534	769	1,303	-250	1,162	1,412
20.2.1	1,405,587	661,894	743,693	-0.082%	-1,151	-691	838	1,529	-460	1,126	1,586
20.3.1	1,404,462	661,311	743,151	-0.080%	-1,125	-512	795	1,307	-613	1,146	1,759
20.4.1	1,398,130	657,775	740,355	-0.451%	-6,332	-483	844	1,327	-5,849	4,045	9,894
20.5.1	1,397,463	657,462	740,001	-0.048%	-667	-531	818	1,349	-136	4,218	4,354
20.6.1	1,396,659	656,939	739,720	-0.058%	-804	-272	936	1,208	-532	1,299	1,831
20.7.1	1,395,953	656,474	739,479	-0.051%	-706	-357	862	1,219	-349	1,366	1,715
20.8.1	1,395,716	656,395	739,321	-0.017%	-237	-267	895	1,162	30	1,886	1,856
20.9.1	1,395,208	656,115	739,093	-0.036%	-508	-271	858	1,129	-237	1,907	2,144
20.10.1	1,394,806	655,857	738,949	-0.029%	-402	-262	905	1,167	-140	1,688	1,828
20.11.1	1,394,366	655,555	738,811	-0.032%	-440	-440	875	1,315	0	1,738	1,738
20.12.1	1,393,670	655,232	738,438	-0.050%	-696	-567	739	1,306	-129	1,222	1,351
21.1.1	1,392,976	654,990	737,986	-0.050%	-694	-536	813	1,349	-158	1,265	1,423

12月中の人口動態の推移

(単位:人)

年月	平11.12	12.12	13.12	14.12	15.12	16.12	17.12	18.12	19.12	20.12	21.12	
自然動態	出生者数	1,053	1,000	1,015	976	898	896	879	790	786	769	813
	死亡者数	1,048	1,089	1,065	1,192	1,162	1,144	1,222	1,208	1,289	1,303	1,349
	自然増減数	5	-89	-50	-216	-264	-248	-343	-418	-503	-534	-536
社会動態	県外からの転入者数	1,554	1,309	1,433	1,497	1,370	1,364	1,275	1,184	1,212	1,162	1,265
	県外への転出者数	1,495	1,261	1,385	1,370	1,612	1,531	1,419	1,484	1,349	1,412	1,423
	社会増減数	59	48	48	127	-242	-167	-144	-300	-137	-250	-158

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年は国勢調査人口(確定値)。

※2 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17年が前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※3 算出方法

県の推計人口=前月の人口+自然増減数(出生者数-死亡者数)+社会増減数(県外からの転入者数-県外への転出者数)

2 本県の経済動向

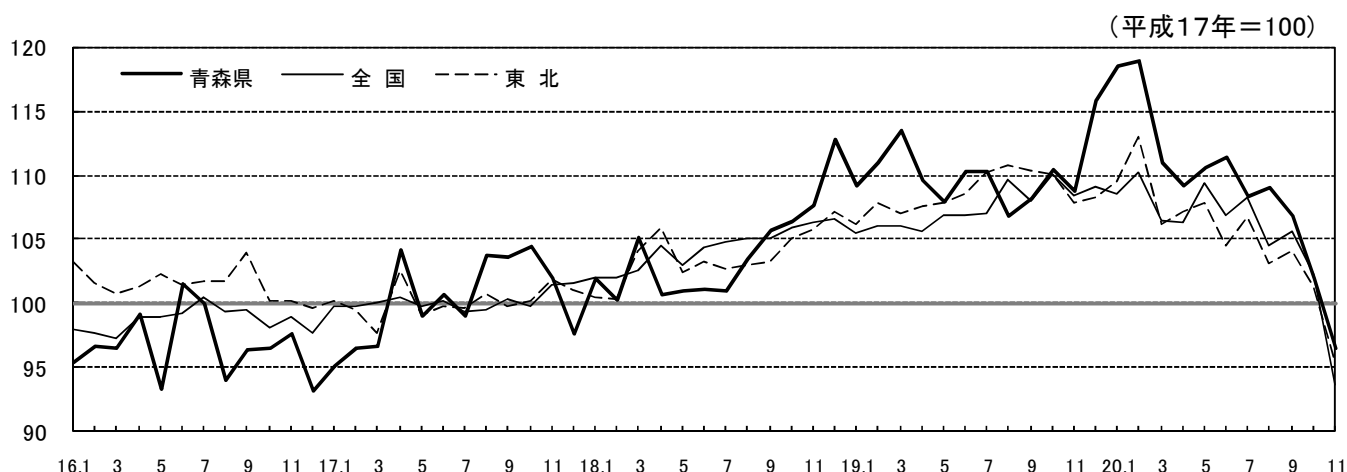
(2) 主要経済指標の動向

(2-1) 製造業の生産

平成20年11月の青森県鉱工業生産指数(平成17年=100)は、季節調整済指数が96.5で、前月比5.4%の低下となり、3ヶ月連続で前月を下回った。また、原指数は99.1で、前年同月比14.6%の低下となり、2ヶ月連続で前年同月を下回った。

季節調整済指数で前月からの動きを見ると、食料品工業、非鉄金属工業、金属製品工業などが上昇に寄与した一方、一般機械工業、電子部品・デバイス工業、鉄鋼業などが低下し、鉱工業全体では5.4%の低下となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移(季節調整済指数)

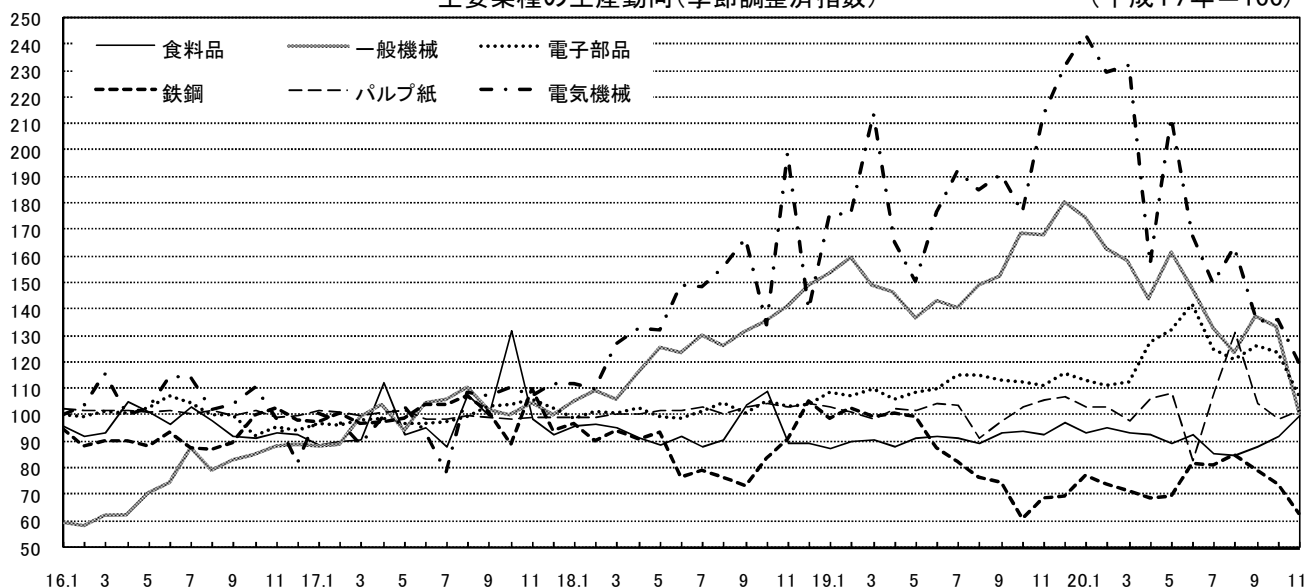


◎業種別動向(前月比) 鉱工業全体 -5.4%

業種	プラス		マイナス		
	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
食料品工業	9.1	31.3	一般機械工業	-24.4	-67.8
非鉄金属工業	46.9	9.7	電子部品・デバイス工業	-13.1	-29.9
金属製品工業	13.7	8.7	鉄鋼業	-14.7	-18.2
精密機械工業	14.4	6.3	電気機械工業	-12.0	-14.9
パルプ・紙・紙加工品工業	3.1	4.1	情報通信機械工業	-41.0	-14.5

主要業種の生産動向(季節調整済指数)

(平成17年=100)



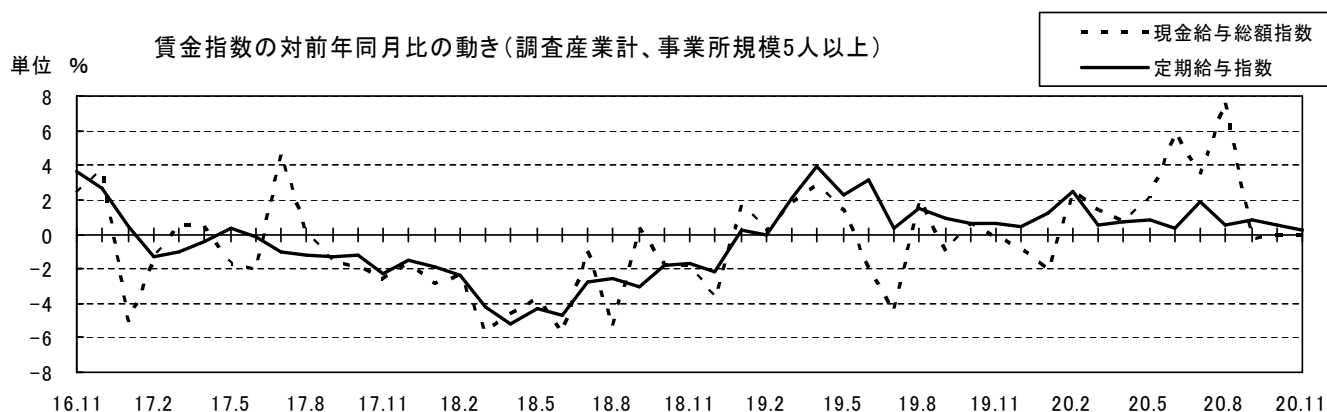
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数(速報)」

(2-2) 雇用情勢

平成20年11月の定期給与は227,307円で定期給与指数(平成17年=100)では98.8となり、前年同月比0.2%増(現金給与総額228,843円、現金給与総額指数83.9、前年同水準)となった。実額で比較した定期給与の全国対比は84.2となった。

総実労働時間は155.0時間で、総実労働時間指数は97.3となり、前年同月比4.1%減となった。このうち、所定外労働時間は9.2時間で、所定外労働時間指数では92.9となり、前年同月比9.8%減となった。

平成20年12月の有効求人倍率(季節調整値)は0.35倍で、前月比0.01ポイント上回った。



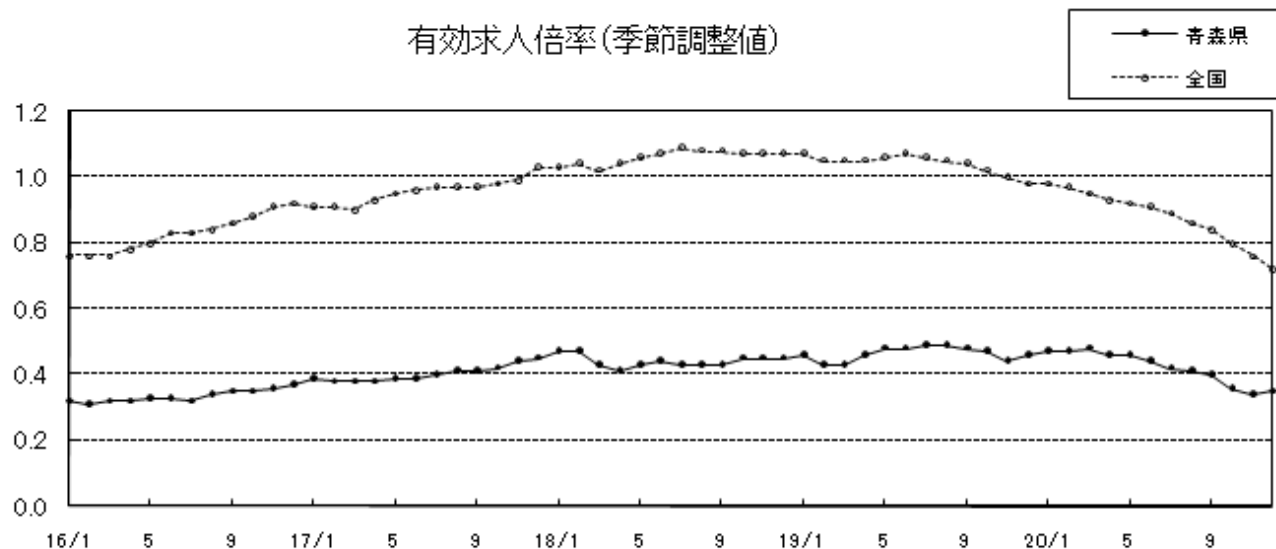
賃金及び労働時間の動き(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実 数		指数(H17=100)		対前年同月増減率	
	県	全 国	県	全 国	県	全 国
現金給与総額	228,843 円	288,588 円	83.9	87.0	0.0 %	-0.7 %
定期給与	227,307 円	269,954 円	98.8	99.9	0.2 %	-0.4 %
特別給与	1,536 円	18,634 円	—	—	—	—
総実労働時間	155.0 時間	149.1 時間	97.3	98.9	-4.1 %	-4.4 %
所定内労働時間	145.8 時間	138.6 時間	97.6	98.9	-3.7 %	-4.3 %
所定外労働時間	9.2 時間	10.5 時間	92.9	99.1	-9.8 %	-7.0 %

(注)1.定期給与とは「きまって支給する給与」のことである。

2.前年同月比は指数によって算出している。

資料: 県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」



資料: 青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」

(2-3) 物価

平成20年12月の青森市消費者物価指数(平成17年=100)は、総合指数が101.1となり、前月と比べ0.8%の下落、前年同月と同水準となった。

生鮮食品を除く総合指数は101.0となり、前月と比べ1.0%の下落、前年同月と比べ0.1%の下落となった。

食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数は98.8となり、前月と比べ0.1%の上昇、前年同月と比べ0.8%の上昇となった。

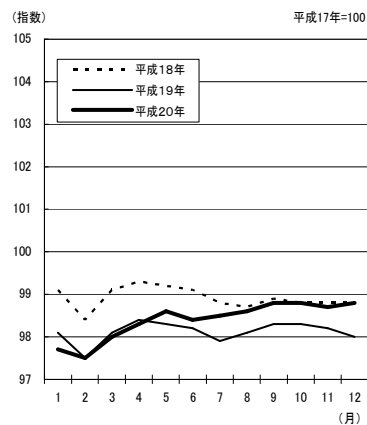
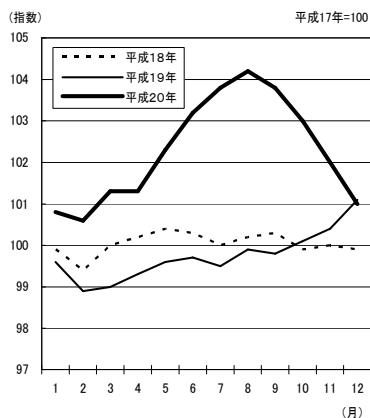
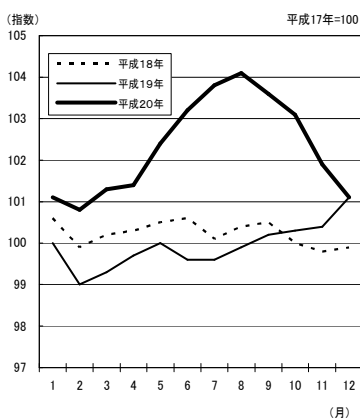
総合指数が前月と比べ0.8%の下落となった内訳を寄与度でみると、光熱・水道、交通・通信などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と同水準となった内訳を寄与度でみると、食料、家具・家事用品などの上昇、光熱・水道、交通・通信などの下落が要因となっている。

図3 食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合指数の動き

図1 総合指数の動き

図2 生鮮食品を除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成17年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	持家の 帰属家 賃を除く総合	食料(酒類 を除く)及 びエネル ギーを除く 総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・ 水道	家具・ 家事用品	被及履 及び物	服 及び物	保 及び物	健康 及び物	交通・ 通信	教育	教 及び物	養 及び物	諸 及び物
当月指数	101.1	101.0	101.5	98.8	103.1	102.6	99.4	108.6	96.2	103.6	97.6	99.2	101.7	94.6	101.9			
前月比 (%)	▲ 0.8	▲ 1.0	▲ 1.0	0.1	0.6	3.0	0.1	▲ 6.1	▲ 0.9	1.0	▲ 0.9	▲ 2.5	0.0	0.3	▲ 0.1			
寄与度	▲ 0.79	▲ 0.93	▲ 0.83	0.06	0.17	0.17	0.02	▲ 0.68	▲ 0.03	0.04	▲ 0.04	▲ 0.27	0.00	0.03	▲ 0.01			
前年 同月比 (%)	0.0	▲ 0.1	0.1	0.8	3.5	2.4	0.2	▲ 7.2	3.9	2.1	▲ 2.1	▲ 4.0	0.5	0.6	1.1			
寄与度	0.00	▲ 0.09	0.08	0.50	0.99	0.13	0.04	▲ 0.83	0.11	0.09	▲ 0.08	▲ 0.44	0.01	0.06	0.06			

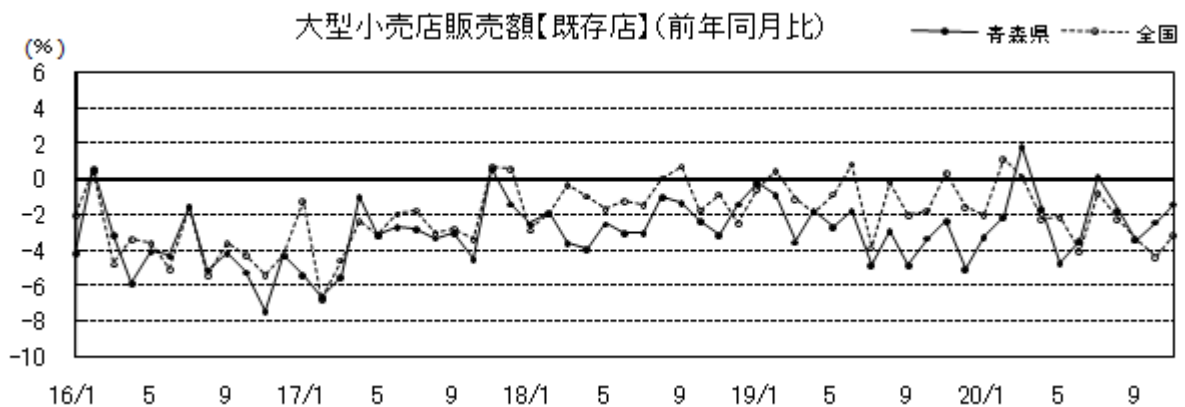
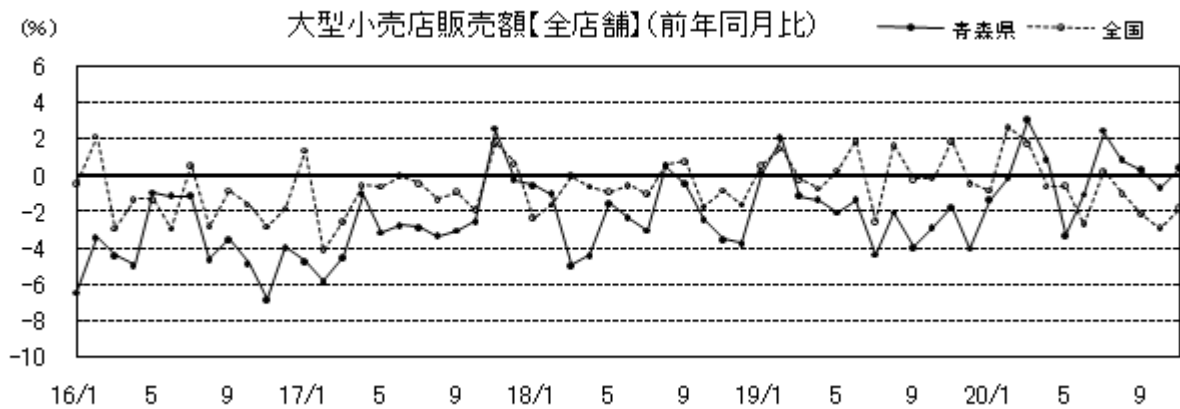
資料：県統計分析課「消費者物価指数月報」

※ 寄与度とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、総合指数の変化率に一致する。

(2-4) 個人消費

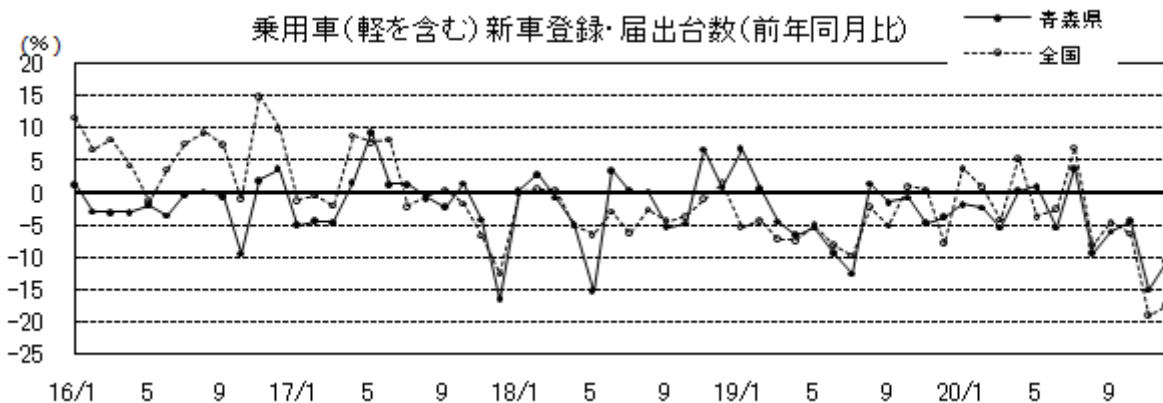
平成20年11月の大型小売店販売額は、全店舗ベースが137億9千9百万円で前年同月比0.4%増と2ヶ月ぶりに増加、既存店ベースでは1.4%減と4ヶ月連続で減少となった。冬物衣料全般が伸び悩んだことから、百貨店は26ヶ月連続で、スーパーは2ヶ月ぶりに、前年を下回った。

平成20年12月の軽自動車を含めた乗用車新車登録・届出台数は2,094台で、前年同月比10.4%の減となり、5ヶ月連続で前年を下回った。普通車、小型車、軽自動車いずれも減少したことによる。



資料：東北経済産業局「東北地域大型小売店販売額動向」

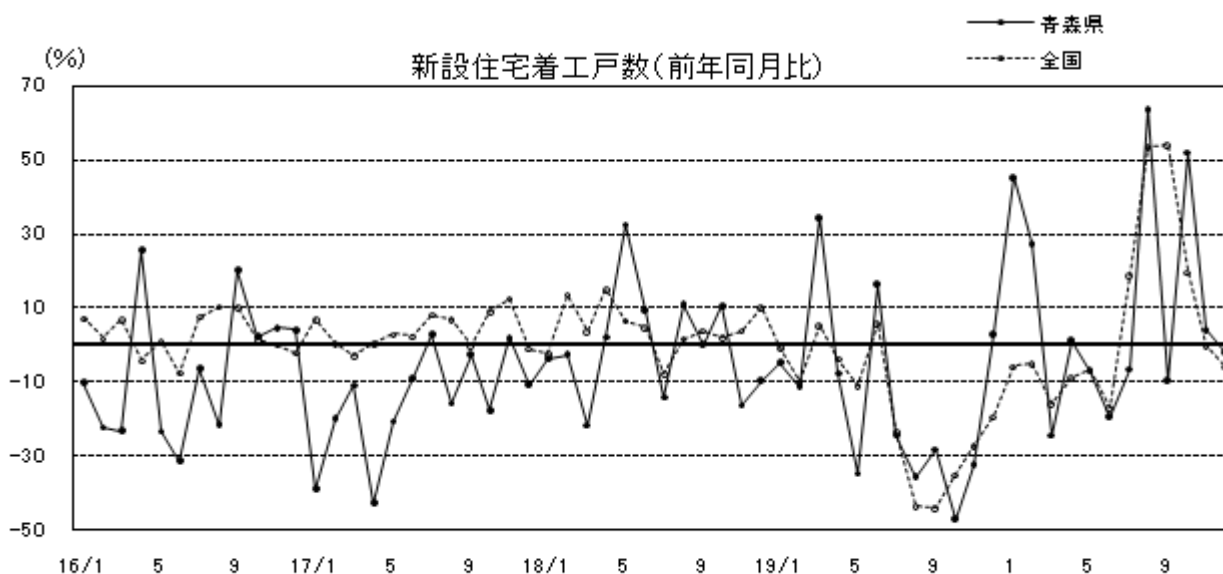
* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。



資料：青森県自動車会議所「車種別登録・届出台数」、日本自動車販売協会連合会「自動車統計データ」

(2-5) 住宅建設

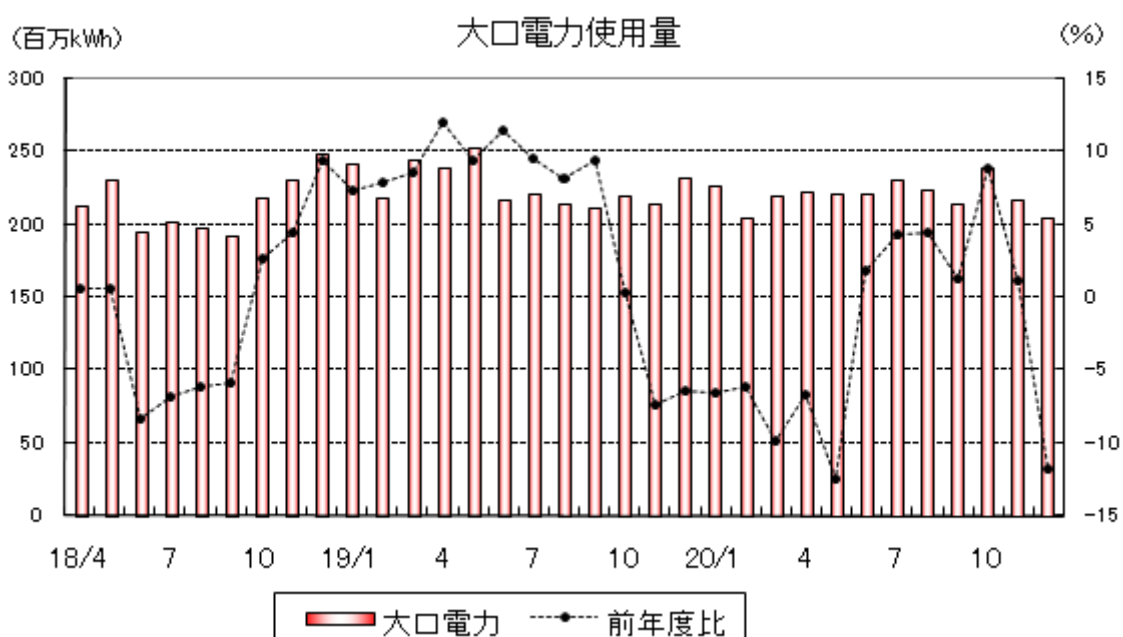
平成20年12月の新設住宅着工戸数は567戸で、前年同月比1.9%減となり、3ヶ月ぶりに前年を下回った。貸家、分譲が増加したものの、持家が減少したことによる。



資料：県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建設統計月報」

(2-6) 電力使用量

平成20年12月の大口電力使用量は2億0,540万kWhで、前年同月比11.8%減となり、7ヶ月ぶりに前年を下回った。「食料品」や「化学」を除くすべての業種が稼働減となったことによる。



資料：東北電力(株)青森支店「電力需要実績」

(3) 青森県景気動向指数

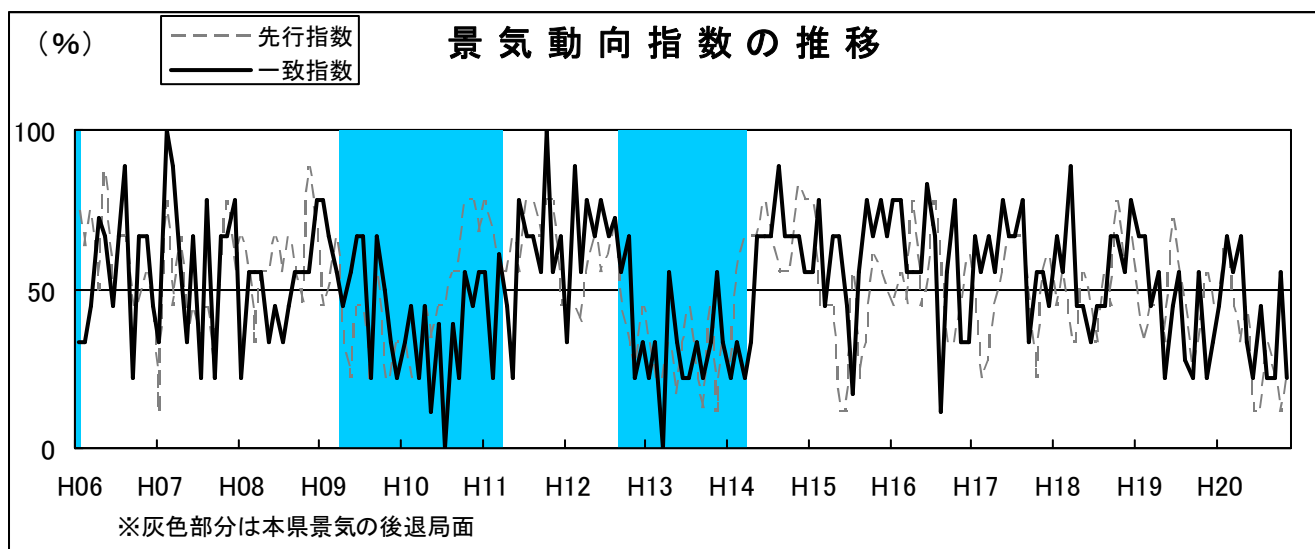
平成20年11月の青森県景気動向指数は、先行指数22.2%、一致指数22.2%、遅行指数33.3%となった。

先行指数は、9か月連続で50%を下回った。

一致指数は、2か月ぶりに50%を下回った。

遅行指数は、4か月連続で50%を下回った。

11月の一致指数は、生産、労働関連等の指標がマイナスとなったことから、50%を下回った。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、5ヶ月前と比較しています）

プラスの指標		マイナスの指標	
先行系列（9指標中2指標がプラス）			
入職率（製造業）	3か月ぶり	乗用車新車登録届出台数	4か月連続
新設住宅着工床面積	2か月連続	生産財生産指数	3か月連続
		新規求人倍率（全数）	8か月連続
		所定外労働時間指数	7か月連続
		建築着工床面積	2か月連続
		企業倒産負債額	2か月連続
		中小企業景況D I	13か月連続
一致系列（9指標中2指標がプラス）			
大型小売店販売額（既存店）	2か月連続	鋳工業生産指数	7か月連続
海上出入貨物量（八戸港）	2か月連続	電気機械生産指数	8か月連続
		大口電力使用量	6か月ぶり
		有効求人数（全数）	13か月連続
		総実労働時間数（全産業）	2か月ぶり
		東北自動車道IC利用台数	7か月連続
		日銀券月中発行高	3か月ぶり
遅行系列（6指標中2指標がプラス）			
勤労者世帯家計消費支出（実質）	2か月ぶり	常用雇用指数（製造業）	15か月連続
単位労働コスト（製造業）	2か月連続	1人平均月間現金給与総額	6か月連続
		輸入通関実績（八戸港）	3か月連続
		青森市消費者物価指数（帰属家賃除く）	14か月ぶり

資料：県統計分析課「青森県景気動向指数月報」

(4) 青森県景気ウォッチャー調査

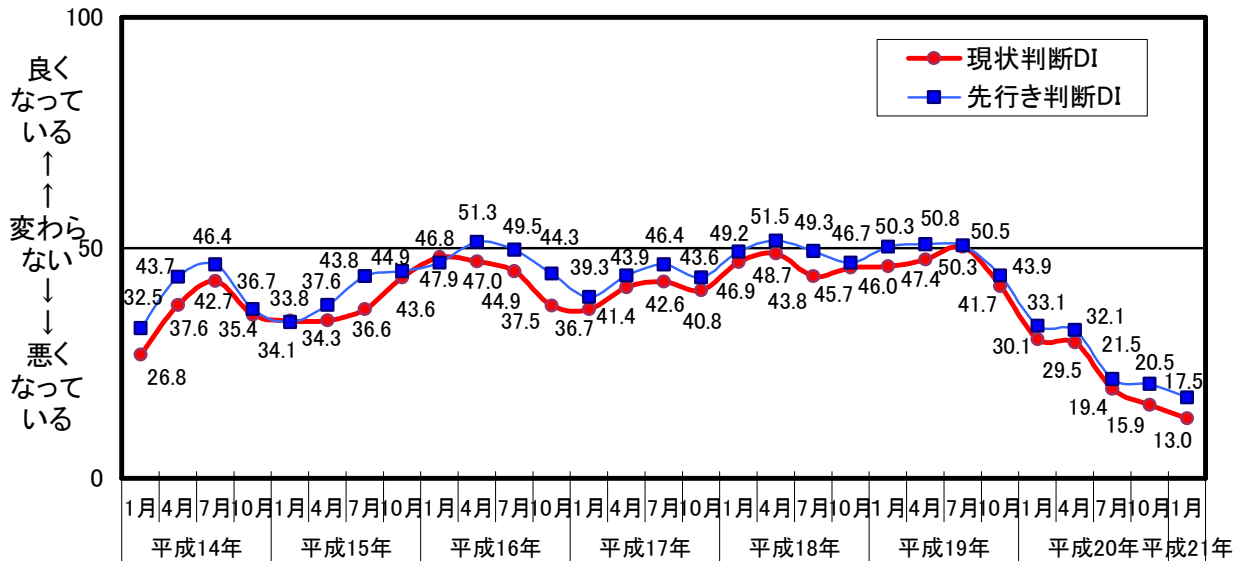
平成21年1月期の景気ウォッチャー調査は、1月5日～1月21日を調査期間とし、回答率は100%となった。

3か月前と比べた景気の現状判断DIは13.0で、前期調査を2.9ポイント下回った。

3か月後の景気の先行き判断DIは17.5で、前期調査を3.0ポイント下回った。

1月期は、景気の現状判断DIが6期連続、先行き判断DIが7期連続低下し、いずれも6期連続で横ばいを示す50を下回った。

景気現状判断DI・先行き判断DIの推移



● 3か月前と比べた景気の現状判断

動 前期調査と比べると、「悪くなっている」が12.5ポイント増加したことにより、全体では2.9ポイント減の13.0となり、6期連続で横ばいを示す50を下回った。

向 判断理由をみると、一部でスキーシーズンを迎え宿泊客が増えたという声や年末の売上げがよかったという声があったが、衣料品の販売不振や急激な経済情勢の悪化による消費低迷、仕事量・売上げが大幅に下がったという声が多かったほか、関東方面からの季節従業員の募集など求人広告が減少したという声があった。

前期調査に比べて、津軽、下北地区においてポイントが増加したが、東青、県南地区ではポイントが減少し、全地区において横ばいを示す50を下回った。

● 3か月後の景気の先行き判断

動 前期調査と比べると、「悪くなる」が9.6ポイント増加したことにより、全体では前期を3.0ポイント下回る17.5となり、6期連続で横ばいを示す50を下回った。

向 判断理由を見ると、景気対策に期待する声がある一方、世界的な不況の余波が企業業績や個人消費に悪影響を及ぼすことや現在起こっている非正規労働者問題などの雇用不安が景気に影響を及ぼすことを懸念する声が多かった。

前期調査に比べて、東青、下北地区においてポイントが増加したが、津軽、県南地区ではポイントが減少し、全地区において横ばいを示す50を下回った。

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」

(参考)景気ウォッチャーによる景気判断理由(一部)

● 3か月前と比べた景気の現状判断理由

- スキーシーズンということで、大会に出場する学生の宿泊が増えたから。(観光型ホテル・旅館=津軽)
- マスコミでさわがれるほど、景気低迷による客数減はまだ発生していず、むしろ増加している。また、青森がそれほどグローバル経済にくみこまれていない。(観光型ホテル・旅館=県南)
- 儉約・節約傾向に変わりなく、財布のひもは堅い。しかし、さらに悪化した感じは見られません。灯油価格が高止まりしていたら、確実に悪化したと思います。好景気の恩恵を受けて来なかった地域ですから、米国発の景気悪化の影響は少ないと思います。(一般小売店=下北)
- △年末はまあまあよかったと思うが、前年と比べたらやや悪いと思う。しかし、まわりや東京と比べたら、まあよかったと思うしかない。(レストラン=東青)
- △来店サイクルが長くなっている。(美容院=津軽)
- △本紙の求人広告が減少。また、折込チラシも関東方面からの季節従業員募集などが皆無に近い状況だった。(新聞社求人広告=津軽)
- ×前年に比べ、ファッション性、上質感を付加価値とする高い価格帯の商品群(ベターゾーン)が衣料品、服飾品を中心に不振。防寒実用品、食料品は比較的堅調ですが、客単価減の現象は引き続き進行中。(百貨店=東青)
- ×急激な経済情勢の悪化により、消費が低迷している。商戦期である12月も売上が非常に悪かった。(卸売業=県南)
- ×当社の売上・収益ともやや上向き傾向にあるも、一般消費者は品質より低価格帯の商品を求める状況下にある。(食料品製造=東青)
- ×仕事量、売上とも大幅に下がりました。特殊品は落ち込みが少ないものの、売上はもともと少ない。量産物は幅広く売れるが、これの落ち込みが大きい。特に海外向けが減っている。(電気機械製造=県南)

● 3ヵ月後の景気の先行き判断理由

- 景気対策に少し期待が持てる。(特に道路関連) 箱ものは期待薄。(建設=東青)
- 急激な景気の悪化のため市場に在庫が溜まったことが、今の受注減の要因だと思われるので、在庫が減少した時点で受注が多少回復すると思われるため。(電気機械製造=津軽)
- 団体予約状況もいまいち。(観光名所等=東青)
- 消費がまったくすすまない。世の中の、この状況この雰囲気では同じ景気が続くと思わざるをえない。(飲料品製造=県南)
- △必需品のみ購入傾向あり。低価格購入客多い。(衣料専門店=津軽)
- △当面の間、景気の低迷は続くものと見込まれ、製品の販売状況の好転は当面期待できないと予想している。(紙・パルプ製造=県南)
- △世界的な不況の余波が企業業績や個人消費に悪影響を及ぼすことが続くと思われる。(人材派遣=東青)
- ×今、行われている非正規社員等の問題が、今年は景気に影響を及ぼすだろう。(タクシー=県南)
- ×全ての業種において将来の展望が見られない感じがします。(スナック=下北)

記号の意味:◎良くなっている、○やや良くなっている、□変わらない、△やや悪くなっている、×悪くなっている

資料：県統計分析課「青森県景気ウォッチャー調査報告書」